



## ○現在の収容鳥獣と救護状況



現在収容中の動物たち

獣類	
ホンシュウジカ	オス1、メス1
猛禽類	
トビ	10
ノスリ	6
フクロウ	2
チョウゲンボウ	2
オオタカ	1
その他の鳥類	
オオハクチョウ	24
コハクチョウ	4
マガン	1
ヒシクイ	1

平成24年の4月1日から平成24年7月14日までの間にセンターに搬入された野生鳥獣はオオハクチョウ(5)、カワラヒワ(4)、トビ(4)、ムクドリ(4)、スズメ(3)、ツバメ(3)、キツネ(2)、ヒヨドリ(2)、コハクチョウ(2)、カルガモ(2)、ノスリ(2)、オオミズナギドリ(1)、ヤマシギ(1)、キビタキ(1)、コノハズク(1)、メジロ(1)、フクロウ(1)、ノウサギ(1)、セグロセキレイ(1)、ササゴイ(1)、ドバト(1)、ゴイサギ(1)、バン(1)、カモシカ(1)、トラツグミ(1)の計25種47個体でした。

4、5月までは渡りの群れから取り残されたハクチョウの搬入がありましたが、今は落ち着いて5月の末ごろからヒナや幼鳥がポチポチ持ち込まれてくるようになりました。過去2年間はトビ・ノスリの救護件数が極端に少なくなったと感じていましたが、今年度はすでにトビ4羽、ノスリ2羽が運び込まれています。救護される動物の種類はいつも偏りがありますが、今シーズンはカワラヒワが意外と多いような気がします。

右の写真はセンターに“自分で来院した”カワラヒワの巣立ちピナです。受付の窓を「コツ、コツ」とノックする音がするのに、姿は見えぬ…と思っていたら、この子が窓枠につかまってくちばしで窓をたたいていました。カラスにいたずらされたのかな？しばらく事務所で休んでいましたが、やがて一息に屋根を越えて飛び去って行きました。巣立ちピナはうまく飛べないし、まだ餌を運んでもらったりと親鳥の助けが必要です。危なっかしいようですが、こうして飛び方や餌の取り方を練習して大人になっていきます。巣立ちピナを見かけたら、温かく見守って、応援してあげましょう！！





## 赤ちゃんを誘拐しないで！！

—迷子のカモシカの赤ちゃんとお母さんが感動の再会—

7月上旬、ニホンカモシカの赤ちゃんが鳥獣保護センターに運び込まれました。足を少し怪我していましたが、特に大きな異常はない様子。県内の温泉入浴施設に迷い込んできて、そのかわいらしい姿と無邪気な様子から人がたくさん集まってきて、「助けてあげなきゃ！」という話になって持ち込んできたようですが…。

このカモシカの赤ちゃんはまだ体重が3.9kgと猫くらいの大きさで、せいぜい生後2～3週間と思われました。まだお母さんのおっぱいだけを飲んでいる赤ちゃんです。

とにかく、ミルクを飲ませないとすぐに弱って死んでしまうので、動物用の粉ミルクを溶いて哺乳瓶であげましたが、うまくいきません。お母さんのおっぱいとゴムの哺乳器は全然違いますし、ミルクの味も違うので、嫌がって飲もうとしてくれないのです。無理に飲ませようとすると、むせて気管に入って肺炎になってしまうので、よほど根気よく、少しずつ慣らせていかなければなりません。この子の場合はそこまでもつかどうかというところでした。

だんだん時間がたつにつれ、おなかが減ってお母さんが恋しくなってきたのか、「めーめー」と悲しそうに鳴くようになりました。センターには獣医師がいますが、この子に本当に必要なのはお母さんです。この子がセンターでうまく

生きていける可能性はほとんど無いようでした。

ニホンカモシカは偶蹄目ウシ科に属する、ヒツジやヤギに近い生き物で、日本の本州から四国、九州にのみ生息します。大人になると山の中の決まった場所に自分の“縄張り”をつくり、そこで子育てをし、一生を過ごします。ほかの野生動物と比べて警戒心が薄く、山道で人や車に出会っても逃げずにじっと立ち止まっているようなことも多く、特に赤ちゃんは人間にもついていってしまうので迷子と間違われることが多いです。

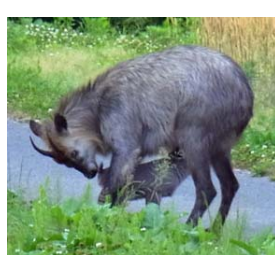
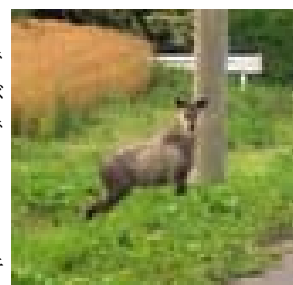
この子の場合も迷子と間違われた「誤認保護」です。それほど遠くまで歩けるわけではないので、きっと近くでお母さんが探しているはず。そこで、まだこの子が元気なうちにお母さんのいるところに帰してあげることにしました。

救護された温泉施設の裏側が山なので、母カモシカがいるのはそのあたりはずです。しかし、もしこの赤ちゃんがまた人間のいるところに出てきてしまうと、再び「保護」されてしまいます。山の中に分け入って、お母さんの姿が見えるところまで連れて行く覚悟で保護された地点に向かいました。

すると・・・、なんと道端にカモシカがいるではありませんか！カモシカはオス、メス両方とも角があるので見た目では分かりませんが、ひょっとしたらお母さんかもしれない。怖がらせて逃げられないように、慎重に赤ちゃんをそばまで連れて行き、様子をうかがいました。2頭はお互いに気付いてからしばらく匂いを嗅ぎあっていたのですが、やがて赤ちゃんがお腹の下に頭を突っ込み、大人のカモシカもお腹の下で守ってあげるようなしぐさを始めました。どうやら本当のお母さんだったようで、おっぱいをもらい始めたようです！

赤ちゃんが保護されてから約7時間、お母さんもおっぱいが張り、赤ちゃんのことが心配でたまらなかつたはずですが。こんなに簡単に再会できるなんてホントに運が良い例ですが、赤ちゃんカモシカの近くには母カモシカが必ずいます。どうか皆さん、赤ちゃんを間違えて親から引き離さないようにしてくださいね！！

(Youtubeでこのカモシカ親子の動画がご覧になれます！ <http://youtu.be/QTfblmauXtE>)



## 鳥獣保護センターが一般公開されます！



8月5日(日)に鳥獣保護センターの一般公開が行われることが決定しました。怪我が原因で野生に戻れなくなった動物たちがのんびりと生活しているところを見に来てみませんか?!

今回は夏場の開催ということもあり、センター内の池や草地、森といった多彩な環境で過ごす動物たちの様子が見られます。

その他、これまで同様に野生動物のはく製や骨格標本の展示に併せて、今回は様々な猟法や猟具についても紹介する「狩猟展」も企画しています。じつは当鳥獣保護センターはもともと猟区に放鳥するためのキジ、ヤマドリ  
の養殖場だったという歴史があります。ヒトと野生動物との関わりについていろいろな角度から考える材料として、ぜひこの機会をご活用ください!

## クイズ! 僕だあれ?!

### 問題1：謎のヒナ



手の大きさと比べてみると、けっこう大きなヒナですね! クチバシ、肢、目(光彩)の色や形、背中の羽根の色などに注意して考えてみましょう。

### 問題2：謎のトリ



この子がクチバシにくわえているのは水でふやかしたドックフードです。ダンボールと比べると、この子もけっこう大きいですよ。図鑑をよーく探しましょう!

## 岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガをしたり弱っている鳥獣を見つけたら、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守る場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物の状態に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえますようお願いいたします。

○センターの見学や研修、動物や標本の貸し出し、ボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

## クイズの答え：

### ○謎のヒナ

答えはノスリです。猛禽類のヒナだというのはすぐわかったと思いますが、およその大きさ、光彩のくすんだ色、くちばしの形と色、肢の色と形からノスリと予想できます。下の写真は問題のヒナの20日後ですが、幼鳥羽がほとんど抜けて成鳥とほぼ変わらない姿ですよ。

人間にヒナから育てられたノスリは、姿は立派に育っても心がノスリになれません。こんなに大きくなっても、ヒナ鳥のようにピーピーと甘えて餌をもらえるのを待つばかりです。ヒナ鳥は親鳥と一緒に過ごして、飛び方や餌の捕り方を勉強します。だから、ヒナや赤ちゃんを見かけても、親から離さないようにしてあげましょうね!



### ○謎のトリ

トラツグミと間違われた人も多いんじゃないでしょうか?

実はこれもヒナ鳥で、ホトトギスの幼鳥です。ホトトギスはウグイスの巣に卵を産んで育ててもらい、託卵という習性がありますが、こんなに大きな子供の世話をさせられるウグイスもたまったもんじゃないですね!!

## センターへのアクセス

